

資料4

# 発達段階に応じた交通安全教育の方法と 児童生徒の主体性

東北工業大学 総合教育センター  
小川 和久

1. 安全教育の考え方と指導ポイント
2. 各発達段階における交通安全上の課題と具体的な教育内容
  - 小学生を対象とした教育実践
  - 中学生を対象とした教育実践
  - 高校生を対象とした教育実践

# 安全教育の考え方と指導ポイント

## 交通安全教育の目的

リスクある**道路交通環境**への**適応**を支援するための**資質・能力**の育成  
(=リスクマネジメント・危機管理に関わる**資質・能力**の育成)

## 考慮すべき教育上の課題

### ① 自尊感情・自己肯定感を大切に

自分や他者の安全を守る上で、児童生徒自身が自分を能力ある人物だと思うこと

### ② 主体的な学習を中心に

自分たちで安全活動を考え、企画し、実践することで、我が事としての課題意識が高まる  
→態度変容、行動変容を導くための基盤となり得る

### ③ キャリア発達の視点

地域や社会との関わりを意識し、自らの果たすべき役割を考える

評価  
(フィードバック)  
の重要性

ESD, SDG'sの視点

市民性教育の視点  
(交通安全に限定されない)

## 安全教育の方向性

上の課題を考慮した安全教育を実践するには、自己のリスクだけでなく、他者(友人、家族など)のリスクや、地域社会全体のリスクを考えるよう、**リスクマネジメント・危機管理の意識を拡大発展させる**方向性が重要  
例)「地域の小学生の安全を守るには」「危険箇所の情報をみんな共有し、互いの命を守ろう」と問いかけることで、子どもの関心が高まりやすくなる

地域のリスク

他者のリスク

自分のリスク

発達段階に応じて  
拡大発展

- 小学3年生による一連の教育活動

校区危険箇所を探しにフィールドワーク 2018.10

交通安全マップの作成と危険箇所 2018.10

危険箇所・「止まってね」マーク総選挙2018.11

学習発表会：3年生が2年生を指導 2018.12

## ● 交差点横断時の左右確認率の変化

### A) 下校前に口頭での指導 2018.10

例) 止まって左右を見る。雨の日なので滑らないように気をつけて帰る。右折の車に気を付ける。

第1回目観察 2018.10 下校 確認率: **23.2%**(集団別)

2018.10 登校 確認率: **38.5%**(集団別)

2018.10 下校 確認率: **23.2%**(集団別)

### B) 全校集会で写真を用いて危険回避の具体的な行動を指導 2018.11

第2回目観察 2018.11 登校

確認率: **77.8%**(集団別)、**70.1%**(個別)

第3回目観察 2018.12 下校

確認率: **87.3%**(集団別)、**69.8%**(個別)

第4回観察(前回から14カ月後) 2020.2 登校

確認率: **91.6%**(個別) ← 効果が持続 (挨拶運動が効果を持続させることに関連!?)

実際に通行する交差点の写真を、子ども主観の角度で提示しながら、危険回避の具体的な行動を考える指導が有効

## 具体的場面と行動のイメージ

が対となって学習される



## 観察学習

言葉による指導より、お手本をまねることで行動学習が容易となる

### ●写真シミュレーション学習

#### ①場面提示

子ども主観のアングルで撮影した写真を、教室前面のスクリーンに提示する

#### ②危険予測

どのような危険が予測されるか

#### ③危険回避

どうすれば安全に横断できるか

「どこで止まる？」

「何をどのように見る？」

「何を確かめる？」

#### ④観察学習(モデリング)

・代表の児童生徒が模範行動を披露する

・他の児童生徒は、代表の児童生徒の行動をモデルとして観察する

## ワークショップ(1年生) 2019.4

- 信号交差点横断時の危険予測
- 自分たちの自転車運転の振り返り  
(ミラーリング: 実際の自転車運転の映像)
- 信号交差点横断時の意思決定の振り返り  
(悪魔VS天使: 自己診断と他者比較)

## ワークショップ(2年生) 2019.4

- 校区の危険箇所に関する情報共有
- 交通安全マップづくり(危険箇所の特定)
- 具体的危険場面と危険予測
- 個別目標「わたしのビジョンゼロ宣言」

## ワークショップ(3年生) 2019.4

- 校区の危険箇所に関する情報を2年生にプレゼンテーション
- 当該箇所の具体的な危険予測と具体的な危険回避方法を実演(寸劇)指導
- 後輩へのキャッチフレーズメッセージ

## 自分の行動を振り返る

- **ミラーリング法**: 他者の行動を鏡にして、自分の行動を振り返る教育手法
- 進め方: ①**安全行動の基準を明確にする**: 「どんな危険があるか」、「どうすれば安全に通行できるか」、行動基準を明確にする
- ②**他者の行動を観察する**
- ③**自己評価を行う**: 自分の行動の姿を振り返り自分の安全度を評価する
- ④**行動目標を設定する**: 行動目標を具体化する

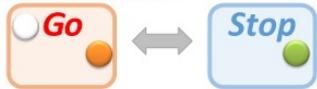
## 自分の意思決定を振り返る

自分の気持ちをふりかえる 【悪魔 vs 天使】 《ワークシート》

「悪魔のささやき」と「天使のささやき」のどちらが大きいですか？



・通過する？ 止まる？



### 「悪魔のささやき」

➢ 自分を危険な行動へ誘う心の声

### 「天使のささやき」

➢ 自分を安全な行動へ導く心の声

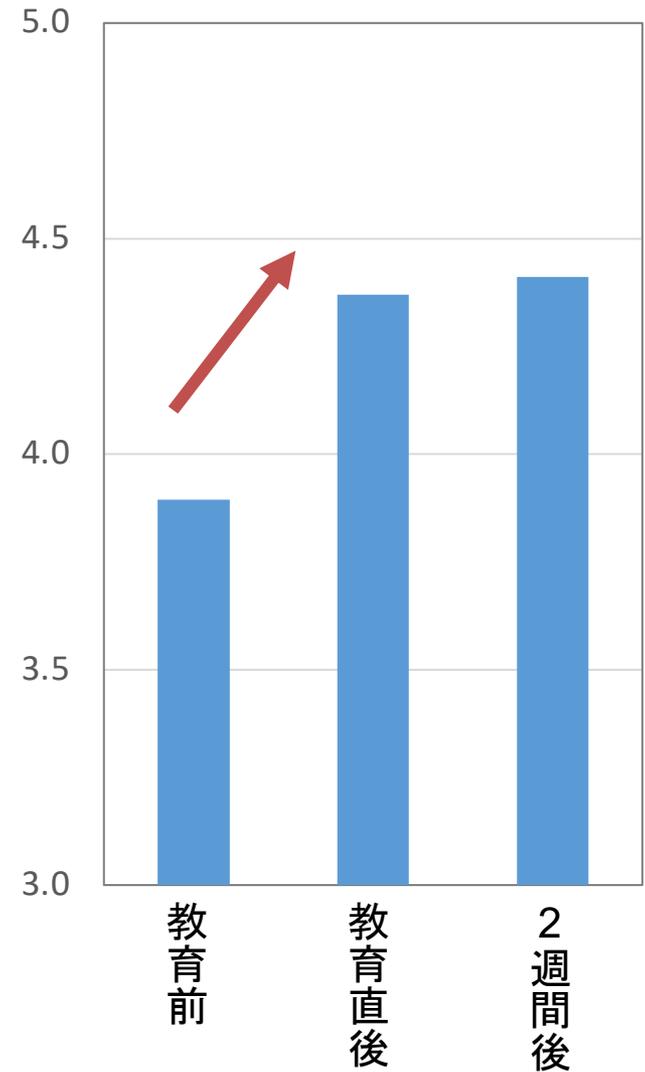
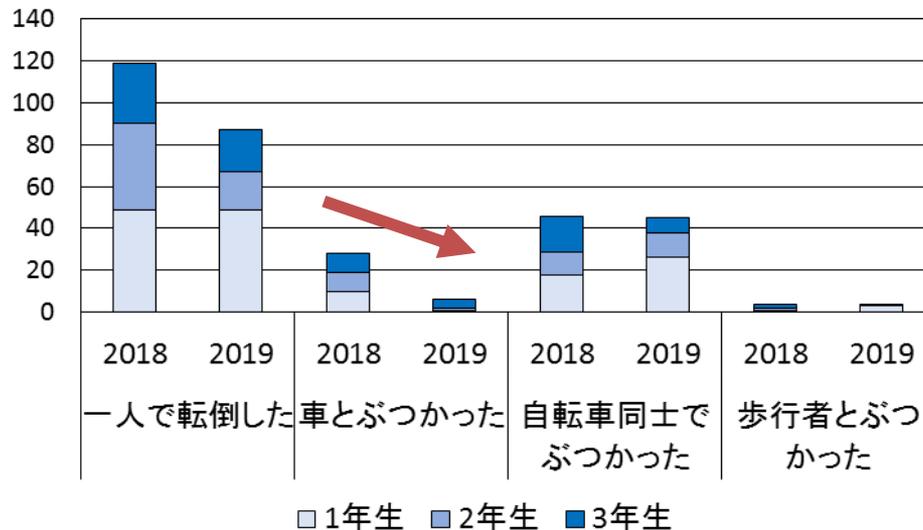
- 内的リスクを可視化する技法「**悪魔 vs 天使**」を用いて、横断時の意思決定について、自分の判断傾向(安全側か危険側か)を自己評価する
- 「**悪魔 vs 天使**」の進め方
  - 具体的な信号交差点を提示し、青信号点滅時の悪魔度、天使度、実際の行動について自己評価する
  - 「友人についていく」「急いでいる」などの条件を加え、同様の自己評価を行う
  - グループ内で自己評価を比較し、自分たちの意思決定の特徴を自己理解する

# 中学生を対象とした教育実践 (宮城県B中学校、山形県C中学校)

## ● 自己モニタリングの意識変化(宮城県B中学校)

- 安全確認を忘れた自分に、ハッと気づくことがある
- 何かに気をとられて、不注意になっている自分に気づくことがある
- スピードを出しすぎていないかどうかを、気にしながら走っている

## ● 自転車事故の比較 (山形県C中学校)



# 高校生を対象とした教育実践

## 生徒が主体となり、自分たちの課題を解決する

- 自転車の乗り方、イヤホン装着、加害者になるリスク、自転車条例とヘルメット着用の問題など、自分たちの課題を共有し、主体的に問題解決していく活動をサポートする
- 生徒会、交通安全委員会の生徒と協力しながら、生徒全員が関わる方法を考える
- 進め方
  - 自分たちの課題を明確にし、問題解決のための生徒同士の議論を積み重ねていく
  - 生徒自身が活動を企画し、運営していく

例)「生徒を対象にアンケート調査を行い、通学中の事故の実態や危険箇所に関する情報を収集する」「近隣の小学生・中学生を交えた話し合いの場を設ける」「同じ問題を抱える他校の生徒と交流する」「専門家を交えたシンポジウムを開催する」「新入生向けの交通安全CM動画の制作」など

### 問題解決のためのブレイン・ストーミング 【3つの要件】

- ① できるだけ生徒全員が関与できる方法はないか
- ② 下級生、新入生に伝える方法はないか
- ③ 楽しい活動でないと続かない

①と②は、普及の縦横の広がり、③はモチベーション

### 生徒主体の交通安全シンポジウムの開催

- 生徒が主体となる活動を推進していくことで、本音の議論が展開され、我が事としての参加意識が高まる
- 生徒の役割: 企画・準備・運営、問題解決のアイデア提案と具体的活動(アンケート、CM動画制作など)
- 大人の役割: 生徒の活動をサポート、専門的立場からの助言など

## 生徒会主催のシンポジウムの開催

### (1) 問題提起

#### 生徒指導部からの提案

- ① 小学生・中学生の安全を確保し、お手本を示す
- ② 斜め横断禁止
- ③ 並走禁止
- ④ 追い越し禁止

生徒指導部からの提案について意見交換

**A: 実現可能か**    **B: 困難な理由は何か**

### (2) 協議 (生徒からの発言)



前方からの小学生と出くわすことがある。小学生とぶつからないために、自分は車道へ出ることがあるが、このような追い越しも禁止なのではないでしょうか？

### (3) 専門家からの提案 (ESD、市民性教育の視点を含む)

- 追い越したいときは自分が急いでいるとき、イライラするとか、それって、自分、自分、自分、、、**自分中心に考えている**んじゃないかな。
- 黙って追い越すだけが解決ではなくて、そこに問題があるのであれば、より安全にその場面を乗り越えていく。お互いに**道路という空間をみんなですべて安全に使っていくんだ**という意識をもってほしい。

## ① 交通安全動画の作成

新入生、全校生徒向けに、交通安全を推進するための動画を作成

【内容】 自転車事故のパターン  
(スマホながら運転、並走、追い越し)  
生徒から生徒へのメッセージ  
(マグロのおすし)「ま」「ぐ」...

生徒のアイデア  
です!

## ② 高校間の情報交流

各校の活動内容について情報交換を行い、生徒主体の活動を促進し、協力体制を構築する

### ● 動画メッセージの交換(2020.08)

岩手県D高校生徒会・教員が動画メッセージを作成  
→宮城県E高校生徒会へ伝達

宮城県E高校生徒会がビデオメッセージを返信

### ● WEB会議による生徒会交流(2020.09)

両校の現状と課題、交通安全に関するこれまでの取組紹介  
意見交換(生徒同士、教員同士)

【ビデオメッセージ内容】  
D校生徒会が交通安全シンポジウムを企画した思い、苦勞したこと、得たこと、教員の思い など